



酒向 弘康 議員

問 「AED」屋外設置をすすめよ

答 公の施設やコンビニ設置は検討



高力区防災訓練での救命講習

1秒でも早くAEDが使える環境整備は、行政の役割だ。町民の「救える命を救う」施策を問う。

問 公共施設と民間の設置の状況は。

答 **消防長** 公共施設34施設42台、事業所25施設33台を把握。

問 設置補助制度の創設の考えは。

答 今後の研究、検討課題。交番や駐在所に設置がすすむよう近隣と協力して県に要望すべきだ。

答 関係各課と協議し、設置要望、方法など検討し、要望していく。

問 24時間いつでも誰でも使用ができるよう屋外設置をすすめるべきだ。
答 他市町の対策など研究

し、所管課と検討。

問 公共施設の自動販売機をAED内蔵のものに切り替えていく考えは。

答 屋内設置、または月間の売上本数400本以上の条件にあう場所があれば設置を依頼したい。

問 県内全体に拡大しているコンビニ店などにAEDを設置していく考えは。

答 **町長** 公の施設には設置する考えで、コンビニには使い方も検討しながら前向きにすすめたい。

問 行方不明者対応は緊急課題だ

答 見守りネットワークを構築する

問 防災無線で「行方不明者」の放送が多くなっている。早期に発見し、保護できるよう連携システムの構築が急務だ。
問 町内行方不明の事案発

生数と推移は。

答 **総務部長** 平成27年は5件発生している。県内でも増加傾向にある。

問 学校の生徒が通学途中、事件に巻き込まれないよう、学校や地域での対応は。

答 **教育部長** 緊急共有化広域ネットワークにて、各学校や関係機関に連絡し、保護者や見守りボランティア団体に協力を依頼している。

問 本町の徘徊高齢者探索支援事業の「受信端末機貸与」の内容、利用状況と今後の周知の方法は。

答 **健康福祉部長** 介護する方に貸与し、徘徊する高齢者などに携帯させ、位置情報を入力し探索する。利用者は1件。周知は広報などで。

問 認知症サポーター養成事業や官民一体で「声掛け」の組織づくりなど、今後の「見守り施策」の取り組みは緊急課題だ。

答 地域・関係機関への協力を求め、新たな見守りネットワークの構築を図る。